



デイリージーザスニュース #054

イエスのガリラヤにおける偉大な宣教

イエスはガリラヤで宣教を始める

イエスは力強い宣教活動でカペナウムを揺さぶる

MK 1.21-34 (並行テキスト : マタイ8.14-16; ルカ4.31B-42)

=====

奇跡4：朝になると...

21 彼らはカペナウムに行った。安息日になると、イエスはすぐに会堂に入り、教え始めた。22 人々はイエスの教えに驚嘆していた。律法学者たちのやり方とは違って、権威ある者のように教えていたからである。

23 そのとき、汚れた霊に取りつかれた人が会堂で叫びました、24 「ナザレのイエスよ、あなたと私たちとの間に何の仲があるのですか。私たちを滅ぼすために来たのですか。私はあなたがどなたであるか知っています。あなたは神の聖者です。」

25 イエスはその霊を叱って言われた。 **「黙れと命じる。この人から出て行け。」**

26 汚れた霊は激しく男を揺さぶり、皆の真ん中に男を投げ倒したが、大きな叫び声を上げて男の中から出てきた。汚れた霊は男に何の害も与えなかった。

27 人々はみな非常に驚いて、互いに言った。「これは、いったい何なのか。新しい教えだ。権威がある。汚れた霊にさえ命じると、彼らは従うのだ。」28 イエスのうわさは、たちまちガリラヤ全土に広まった。

奇跡5：その日の午後、午後1時頃

29 彼らは会堂を出てすぐに、ヤコブとヨハネと一緒にシモンとアンデレの家へ行きました。30 シモンの姑は高熱を出して寝ていたので、人々はすぐに彼女のことをイエスに告げた。31 イエスは床に近づき、彼女の手をしっかりと握って起こされた。すると、熱はたちまちひき、彼女は彼らの接客を始めた。

その夜...多くの治癒の奇跡が起こった

32 その夕方、日が沈むと、人々は病人や悪霊にとりつかれた人々をみなイエスのもとに連れて来た。33 町中の人々が戸口に集まった。34 イエスはさまざまな病気にかかっている多くの人々を癒し、また多くの悪霊を追い出した。これは預言者イザヤを通して言われたことが実現するためであった。「彼は自ら私たちの病を負い、私たちの病を負った。」(イザヤ書 53.4)

^Mしかし、イエスは悪霊たちに話すことを許されませんでした。なぜなら、悪霊たちはイエスが誰であるかを知っていたからです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

コンテキストダイジェスト	
位置	カペナウム
時間	イエスが31歳の8月(8月)
の生涯の段階	第4段階: ガリラヤでの偉大な宣教
第10章	イエスはガリラヤで宣教を始める
セクション #054	イエスは力強い宣教活動でカペナウムを揺さぶる

イエス」のガリラヤ宣教の始まり」における6番目で最後の出来事は、町を根底から揺るがした宣教の代表的な日であり、イエスは3番目と4番目の奇跡、そして数え切れないほどの他の奇跡も行いました。それは永遠に記憶される日でした。

イエスが世界を7日間の「週」で創造したことを覚えておくのは興味深いことです。イエスは弟子を作る働きを、最初の5人の弟子を召して彼らに自分を明らかにした「週」から始め、最終日に最初の奇跡を起こしてクライマックスを迎えました。さて、共観福音書の著者たちは、「週」の代わりに、イエスの生涯における24時間の期間を取り上げることに決めました。これは、イエスがガリラヤで毎日どのように過ごしたかの代表的な例となりました。したがって、この「日」

はイエスの日常生活を理解する上で非常に重要でした。イエスは 24 時間で何をしたのででしょうか。

カペナウムに移ってから最初の土曜日 (安息日) に、イエスはカペナウムの会堂で、その権威を二重に明らかにして朝を始めました。まず、イエスは、誰も見たことのない権威をもって教えました。マルコの言葉によれば、イエスが教えている間、集まった群衆は絶え間なく驚きの声を上げていました。イエスのメッセージの何がそれほどユニークだったのでしょうか。

イエスの時代の旧約聖書学者や教師たちは、いつも他の教師の言葉を引用していました。他の教師は他のラビの言葉を引用し、そのラビは他の元教師の言葉を引用していました。イエスのように聖書を読んで直接教えた人は誰もいませんでした。聖書のメッセージに対する権威ある理解を説くイエスの自信と権威は、彼らが夢にも思わなかったレベルの大胆さであり、ましてや経験したことのないものでした。しかし、それだけではありませんでした。

奇跡その3。会堂に悪霊にとりつかれた男がいたため、イエスは一言で悪霊を楽々と追い出すことにより、さらにその権威を示されました。人々はまたもや、そのような素晴らしい力を持つ人がいることを聞いたことがなく、ただ唖然としました。悪霊たちでさえイエスの権威に従いました！その結果、その男は普通の生活に戻りました。つまり、彼は「救われた」、つまり完全に回復したのです。

イエスは、その言葉 (悪魔祓い) とその言い方 (聖書の権威ある解釈) の権威によって、一朝のうちに人々の世界をひっくり返しました。会堂を出た人々は、イエスが言ったことと行ったことを、目にしたすべての人に伝え始めました。そして、イエスについての良い知らせは、わずか数時間でカペナウムの町全体に広がり、数日のうちに周囲のすべての地域にまで広がりました。

奇跡その 4。イエスは会堂を出て、律法の規定に従って午後に「休息」するためにペテロの家に行きました。ペテロの姑は重病でした。マルコの記述によると、彼女は立ち上がることもできないほどの高熱で数日間寝たきりでした。彼女は何も食わず、時間とともに衰弱していききました。

イエスは彼女の手をしっかりと握り、神の力が彼を通して彼女に流れ込み、熱の根本原因を癒し、熱を瞬時に治しました。彼女は元気いっぱいになり立ち上がり、すぐにイエスと家にいる人々に仕え始めました。マルコがイエスが彼女を「蘇らせた」と表現した言葉は、新約聖書でイエスの復活を表す標準的な言葉です。この瞬間的な治癒は、イエスの死からの復活を象徴するほどのものでした。それでも、宣教の日はまだまだ終わっていませんでした。

数え切れないほどの奇跡が起こりました。午後、イエスがペテロのしゅうとめを生き返らせて休んでいる間、その朝イエスが会堂で行ったことのニュースが町中に広まりました。病気や障害、悪霊にとりつかれた人々は皆、これが自分たちの苦しみからの牢獄から逃れるチャンスだと悟りました。

た。さらに、そのような人々の友人や親戚も、安息日が終わるとすぐに、つまり日没になると、傷ついた愛する人をイエスのもとに連れて行く計画を立てました。

太陽が地平線の下に沈むと、宣教を求める人々がドアの前に殺到し、遠くに住む人々も続々とやって来て、夜になってもその数は増え続けました。イエスは夜遅くまで、あらゆる病気や疾患を癒し、悪霊から解放する宣教を続けました。誰も追い返されませんでした。その夜、カペナウムでは言葉では言い表せないほどの歓喜が起こりました。

注: DJN では、これまで 35 の奇跡のうち 4 つをイエスの奇跡として見てきました。これらには、イエスの宣教活動における 3 つの主要な奇跡が含まれています。自然の奇跡 (#1、水がワインに変わる)、治癒の奇跡 (#2、言葉による王室の役人の息子の治癒 (、悪魔祓いの治癒 (#3、カペナウムのシナゴークの悪魔に取り憑かれた男の治癒)。

ガリラヤでイエスと共に宣教した一日は、それを経験したすべての人にとって驚くべきものでした。しかし、重要なのは、イエスにとってその日がいかに忙しかったかということではありません。その日は「休息」の日であり、午後中ずっと公の宣教から遠ざけられました。イエスの生涯を振り返ってみると、この日はイエスにとって実際にはかなり「軽い」一日であったことがすぐに明らかになります。イエスは、通常、1日12時間から16時間宣教しました。

」日」を観察する私たちの24時間は、日曜日の早朝の時間帯を説明する次のDJNまで続きます。
)

応用：

私たちの多くは、教会や家庭で、素晴らしい宣教の日々を目にしてきました。しかし、カペナウムでのイエスの宣教の最初の安息日に何が起こったのかを目撃した人はいません。イエスが救世主であった証拠は圧倒的でした。イエスの宣教を受ける資格のない人々に対するイエスの愛、恵み、思いやりは豊かでした。癒し、解放するイエスの力は素晴らしかったです。イエスの栄光はなんと輝いていたのでしょうか。

安息日は礼拝に捧げられた日でした。カペナウムでイエスが安息日になさったことについての良い知らせは、私たちがイエスを絶えず礼拝するために書き留められました。私たち全員にとって、自分の力で自分の仕事をするのをやめ、イエスに完全に頼って休む日が毎日「安息日」なのです。

「イエス・キリストは、昨日も、今日も、そして永遠に同じです。」ヘブライ人への手紙 13:7
だからこそ、私たちは福音書に記されているように、彼を完全に信頼しなければなりません。なぜなら、彼は今も変わらず、私たちの中に生きているからです。ハレルヤ、なんと素晴らしい救世主でしょう。